

吉田遺跡と平川の遺跡

～ 展示品目録 ～

ひらかわ地区



今回ご紹介する考古遺物の出土遺跡

- | | |
|-------------|-------------|
| ① 吉田遺跡 | 15 泉香山遺跡 |
| 2 吉田・大浴遺跡 | ⑬ 広沢寺古墳 |
| ③ 大浴古墳 (消滅) | 17 中島遺跡 |
| 4 乗ノ尾石棺 | ⑭ 小原遺跡 |
| ⑤ 神郷大塚遺跡 | 19 岡小路遺跡 |
| ⑥ 平清水石棺 | 20 小出遺跡 |
| ⑦ 両家遺跡・大塚古墳 | ⑰ 黒川遺跡 (消滅) |
| ⑧ 日吉神社横穴墓群 | ⑱ 西遺跡 |
| 9 郷遺跡 | 23 堂山古墳群 |
| 10 沖遺跡 | 24 吉野遺跡 |
| 11 馬木遺跡 | 25 平川山田遺跡 |
| 12 長谷遺跡 | ⑳ 堂道遺跡 |
| 13 高倉荒神遺跡 | 27 四十九ヶ原遺跡 |
| ⑭ 小路遺跡 | |

● は、今回展示を行っている遺跡です

第19回企画展「吉田遺跡と平川の遺跡展」展示品目録

吉田遺跡

吉田遺跡は山口盆地の南東縁に位置し、約72万㎡におよぶ吉田キャンパスにある遺跡群の総称で、樫野川左岸の沖積平野と、姫山、今山から派生した丘陵上にまたがって立地しています。大学本部から家畜病院にかけてのキャンパス東部は低丘陵上、西部は沖積平野に立地します。西部は、遺跡保存公園などで低段丘がみつかり、数ヶ所で谷が入り組んでいたようです。

吉田遺跡の周囲には、日吉神社横穴墓群、乗ノ尾石棺群、平清水八幡宮の石棺など、吉田遺跡の集落の人々によって営まれたと考えられる墳墓群が点在しています。吉田遺跡は、弥生時代から中世を中心にさかえ、旧石器時代から江戸時代まで存続する、樫野川左岸の中核的な遺跡といえるでしょう。

今回の展示では、旧石器時代から江戸時代までの様々な遺物を展示しています。

出品番号	遺物名	時期	出土遺跡	出土地・出土遺構
1	尖頭器	旧石器時代後期	吉田遺跡	農学部連合獣医学科棟
2	ナイフ形石器	旧石器時代後期	吉田遺跡	農学部連合獣医学科棟
3	ナイフ形石器	旧石器時代後期	吉田遺跡	遺跡保存公園
4、5	縄文土器 深鉢	縄文時代後期	吉田遺跡	公共下水道
6	石匙	縄文時代晩期	吉田遺跡	農学部連合獣医学科棟
7	石鏃	縄文時代晩期	吉田遺跡	農学部連合獣医学科棟
8	分銅形土製品	弥生時代中～後期	吉田遺跡	図書館
9	弥生土器 壺	弥生時代中期	吉田遺跡	第1地区A区
10	弥生土器 壺	弥生時代中期	吉田遺跡	第1地区A区
11	弥生土器 壺	弥生時代中期	吉田遺跡	第1地区A区
12	弥生土器 壺	弥生時代中期	吉田遺跡	第1地区A区
13	弥生土器 甕	弥生時代中期	吉田遺跡	第1地区A区
14	ガラス小玉	弥生時代中～後期	吉田遺跡	遺跡保存公園
15	管玉	弥生時代中～後期	吉田遺跡	遺跡保存公園
16	管玉	弥生時代中～後期	吉田遺跡	遺跡保存公園
17	石鎌	弥生時代	吉田遺跡	本部2号館
18	石庖丁	弥生時代	吉田遺跡	本部2号館
19~27	円筒埴輪片	古墳時代後期	吉田遺跡	農学部附属農場(飼料園)
28~38	滑石製模造品	古墳時代後期	吉田遺跡	本部2号館
39	滑石原石	古墳時代後期	吉田遺跡	大学会館前庭部
40	滑石剥片	古墳時代後期	吉田遺跡	大学会館前庭部
41~71	六連式製塩土器	奈良～平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟
72~81	緑釉陶器	奈良～平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟
82	木簡	奈良～平安時代	吉田遺跡	大学会館
83	モノサシ	奈良～平安時代	吉田遺跡	大学会館
84	鉞尾	奈良～平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟
85	石帯	奈良～平安時代	吉田遺跡	大学会館
86	円面硯	奈良～平安時代	吉田遺跡	大学会館
87	円面硯	奈良～平安時代	吉田遺跡	総合研究棟
88	円面硯	奈良～平安時代	吉田遺跡	農学部バイオ環境制御施設
89	須恵器 坏蓋(墨書土器「官」)	奈良～平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟

日吉神社横穴墓群

この横穴墓群は、山口大学吉田キャンパスの北側、現在日吉神社が建っている丘陵の斜面に造られています。

横穴墓とは、山腹などに横から穴を掘りくぼめて造ったお墓のことで、古墳時代後期から飛鳥時代にかけて多く造られました。

日吉神社横穴墓群は、現在までに丘陵の南斜面に6基、北斜面に1基が確認されています。大正7年(1918年)には、平井地区の青年団による発掘調査が行われ、土器とともに金環、剣の破片、人骨などが出土したようですが、現在では今回展示している須恵器10点、土師器1点が伝わるだけです。これらの土器の特徴から見て、この横穴墓群は6世紀後半から7世紀初頭にかけて造られたものと考えられます。

大浴古墳

この古墳は、中国自動車道の建設にともない消滅してしまいましたが、大字吉田字大浴に存在していました。

古墳の発見当時、すでに墳丘の大部分と埋葬施設の前面および上半部は破壊されていましたが、発掘調査の結果、埋葬施設は横穴式石室であることが判明しました。また、墳丘は直径約6mの円墳と考えられます。

玄室の床面からは、今回展示している6点の須恵器が出土しました。これらの土器の特徴から見て、この古墳は7世紀の後半に造られたものと考えられます。

広沢寺古墳

この古墳は、山口市立平川中学校の南にそびえる独立丘陵「泉香寺山」の南斜面に位置しています。現在は広沢寺というお寺の境内にあたるため、「広沢寺古墳」という名で呼ばれています。今日でも見学できる古墳として平川地区の貴重な文化財となっています。

今回展示している須恵器は、広沢寺に所蔵されているものです。古くに採集されたものらしく、正確な出土地点は不明ですが、広沢寺古墳の副葬品であった可能性があります。

出品番号	遺物名	時期	出土遺跡	出土地・出土遺構
90	須恵器 坏身(墨書土器「富」)	平安時代	吉田遺跡	大学会館前庭部
91	銅鍬石	奈良~平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟
92	籬の羽口	奈良~平安時代	吉田遺跡	農学部解剖実習棟
93~109	青磁碗(龍泉窯系)	平安時代後半~鎌倉時代前半	吉田遺跡	大学会館
110~147	白磁碗	平安時代後半~鎌倉時代前半	吉田遺跡	大学会館
148	瓦質土器 播鉢	室町時代後半	吉田遺跡	本部2号館
149	瓦質土器 足鍋	室町時代後半	吉田遺跡	本部2号館
150~155	土師器 皿	室町時代後半	吉田遺跡	本部2号館
156・157	銅銭	室町時代	吉田遺跡	本部2号館
158	陶器 播鉢	江戸時代	吉田遺跡	メディア基盤センター
159,160	陶器 碗	江戸時代	吉田遺跡	メディア基盤センター
161,162	萩焼 浅鉢	江戸時代	吉田遺跡	本部2号館
163,164	萩焼 碗	江戸時代	吉田遺跡	本部2号館
165	須恵器 提瓶	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
166	須恵器 提瓶	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
167	須恵器 平瓶	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
168	須恵器 平瓶	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
169	須恵器 高坏	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
170	須恵器 坏蓋	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
171	須恵器 短頸壺	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
172	須恵器 短頸壺	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
173	(上)須恵器 壺蓋	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
174	(下)須恵器 短頸壺	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
175	土師器 椀	古墳時代後期	日吉神社横穴墓群	
176	須恵器 平瓶	白鳳時代	大浴古墳	
177	須恵器 蓋	白鳳時代	大浴古墳	
178	須恵器 高坏	白鳳時代	大浴古墳	
179	須恵器 椀	白鳳時代	大浴古墳	
180	(上)須恵器 蓋	白鳳時代	大浴古墳	
181	(下)須恵器 椀	白鳳時代	大浴古墳	
182	須恵器 短頸壺	古墳時代後期	広沢寺古墳?	

165~175 山口県立博物館所蔵

176~181 (財)山口県埋蔵文化財センター所蔵

182 広沢寺所蔵

神郷大塚遺跡

この遺跡は、山口大学吉田キャンパスに北接する山口市大字吉田字神郷、岡大塚の周辺に広がっています。

神郷大塚遺跡での集落の変遷をたどってみると、この地に初めて集落が営まれるのは弥生時代前期のようです。この時期の集落は、遺跡内でも北側の地形の低所に営まれます。次の古墳時代に至ると、やや南側の高い場所に集落は移動するようです。奈良時代から鎌倉時代も引き続き同じ所に集落は営まれますが、さらに丘陵側からは平安時代の墳墓が発見されています。室町時代になると、集落自体が丘陵側に移動します。この集落の移り変わりを見ると、時代の流れとともに田畑の開発が山地側に及んでいく過程が復元できます。

今回展示しているものは、この遺跡で集落が営まれ始めた頃の弥生時代の土器です。

黒川遺跡

この遺跡は、黒河内山から北方に延びる丘陵の末端部、山口市大字黒川字小出に位置しています。西遺跡の南東部に接する位地になりますが、すでに破壊されているため現在は「黒川遺跡」という遺跡名は残っていません。

調査の結果、丘陵の高い部分からは弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓が、丘陵の低い部分からは平安時代から室町時代にかけての集落と室町時代の墳墓が営まれていたことが判明しました。

今回展示しているものは、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけて造られた方形周溝墓（周囲から区画するための溝を掘った四角い墓）に供えられていたと思われる遺物と、室町時代前半に造られた墓から出土した遺物です。

西遺跡

この遺跡は、山口県立西京高校の周辺から南方の丘陵地帯まで広範囲におよんでおり、縄文時代から室町時代にかけての長期間にわたる複合遺跡です。

これまでに行われた発掘調査で確認された主な遺構としては、縄文時代晩期の河川跡やピット、弥生時代前期の土器棺墓、弥生時代終末から古墳時代前期前半にかけての竪穴住居跡、古墳時代中期中頃から後半にかけての竪穴住居跡、奈良時代から平安時代初頭にかけての掘立柱建物跡などがあります。

今回展示しているものは、古墳時代中期後半に建てられたと考えられる、第12号住居跡（山口市教育委員会による昭和59年度調査地）の出土遺物です。

出品番号	遺物名	時期	出土遺跡	出土地・出土遺構
183	弥生土器 壺	弥生時代前期	神郷大塚遺跡	21号土墳
184	弥生土器 鉢	弥生時代前期	神郷大塚遺跡	21号土墳
185	弥生土器 甕	弥生時代前期	神郷大塚遺跡	21号土墳
186	(上) 土師器 壺	弥生時代終末～古墳時代初頭	黒川遺跡	方形周溝墓
187	(下) 土師器 器台	弥生時代終末～古墳時代初頭	黒川遺跡	方形周溝墓
188	宝篋印塔 九輪	室町時代後半	黒川遺跡	中世墓1
189	宝篋印塔 基礎	室町時代後半	黒川遺跡	中世墓1
190	土師器 皿	室町時代後半	黒川遺跡	中世墓1
191～196	銅銭	室町時代後半	黒川遺跡	中世墓1
197	(上) 須恵器 蓋坏	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
198	(下) 須恵器 坏身	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
199	須恵器 はそう	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
200	土師器 高坏	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
201	土師器 高坏	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
202	土師器 鉢	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
203	土師器 壺	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡
204	土師器 甕	古墳時代中期	西遺跡Ⅰ	第12号竪穴住居跡

183～185 山口市教育委員会所蔵

186～196 (財)山口県埋蔵文化財センター所蔵

197～204 山口市教育委員会所蔵

西遺跡

この遺跡は、泉香寺山の東側、現在の山口市立平川中学校の周辺に広がっており、縄文時代から室町時代にかけての長期間にわたる複合遺跡です。

これまでに行われた発掘調査では、縄文時代晩期から平安時代初頭にかけて機能していたと考えられる河川跡や、弥生時代と古墳時代の竪穴住居跡、奈良時代末から平安時代にかけて灌漑（田畑に水を引く施設）に利用していたと考えられる大溝などが発見されています。

今回展示しているものは、古墳時代中期前半の竪穴住居跡と奈良時代末から平安時代まで利用されていた大溝から出土した遺物です。

小原遺跡

この遺跡は、椹野川左岸に形成された氾濫原（川の洪水などで大小の石が堆積してできた土地）の中央部、山口市大字黒川字上ヶ山に位置しています。

これまでの発掘調査により、この遺跡は室町時代後半の集落であることが確認されました。他の時代の遺構が検出されないことから、この集落は短期間に消滅したものと考えられます。

検出された遺構としては、掘立柱建物8棟、井戸6基、炉跡などがありますが、集落は40m～50mの非常に狭い範囲に限定的に営まれていたものと考えられます。

今回展示しているものは、小原遺跡から出土した土器類です。この遺跡の特徴としては、中国大陸や朝鮮半島で作られた陶磁器が多く出土していることが挙げられます。このことは、この集落を営んだ人々が比較的裕福であったことを物語っています。

出品番号	遺物名	時期	出土遺跡	出土地・出土遺構
205	須恵器 碗	奈良時代	小路遺跡	大溝
206	須恵器 碗	奈良時代	小路遺跡	大溝
207	須恵器 碗	奈良時代	小路遺跡	大溝
208	須恵器 坏蓋	奈良時代	小路遺跡	大溝
209	土師器 壺	古墳時代中期	小路遺跡Ⅱ	第1号竪穴住居跡
210	砥石	古墳時代中期	小路遺跡Ⅱ	第1号竪穴住居跡
211	土師器 壺	古墳時代中期	小路遺跡Ⅱ	第2号竪穴住居跡
212	土師器 高坏	古墳時代中期	小路遺跡Ⅱ	第2号竪穴住居跡
213	青磁 碗（龍泉窯系）	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	573号柱穴
214	陶器 碗（李朝）	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	446号柱穴
215	土師器 皿	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	440号柱穴
216	土師器 皿	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	448号柱穴
217	瓦質土器 焙烙	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	4号溝
218	瓦質土器 足鍋	室町時代後半	小原遺跡Ⅱ	6号溝
219・220	ナイフ形石器	旧石器時代	堂道遺跡	
221	細石核	旧石器時代	堂道遺跡	
222～225	剥片	旧石器時代	堂道遺跡	
226	土師器 皿	室町時代後半	堂道遺跡	B地区18号柱穴
227	青磁 碗	室町時代後半	堂道遺跡	B地区86号柱穴
228	(上) 瓦質土器 羽釜蓋	室町時代後半	堂道遺跡	B地区97号柱穴
229	(下) 瓦質土器 羽釜	室町時代後半	堂道遺跡	B地区97号柱穴
230	(上) 土師器 壺	弥生時代終末～古墳時代初頭	堂道遺跡	第1号墓
231	(下) 土師器 壺	弥生時代終末～古墳時代初頭	堂道遺跡	第1号墓

堂道遺跡

この遺跡は、陶峠を源とする河川が形成した扇状地に位置しています。遺跡の範囲は、現在山口リハビリ病院が建っている付近を北限とし、南限は山裾を走る中国自動車道をさらに超える広範囲に及んでいます。

堂道遺跡は、旧石器時代から室町時代にかけての遺物や遺構が出土する複合遺跡です。これまでの発掘調査では、室町時代の集落を中心に、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代初頭の墳墓などが発見されています。また旧石器の出土は、平川地区で人類が活動を始めた時期を物語る貴重な資料です。

今回展示しているものは、その旧石器資料と室町時代の遺構から出土した土器、そして古墳時代初頭の墳墓から出土した「土器棺」です。